

平成 31 年度 (2019)

国語 (第三回)

設問		得点率 (%)	設問		得点率 (%)
1 説明文	問1	68.8	2 物語文	問1	51.9
	問2	27.1		問2	57.7
	問3	32.5		問3	85.8
	問4	46.0		問4	43.2
	問5	52.7		問5	60.5
	問6	98.7		問6	93.2
	問7	73.1		問7	97.0
	問8	86.3		問8	53.0

平均点 4科 64 点

最高点 4科 84 点

最低点 4科 24 点

1 出典：安藤寿康『なぜヒトは学ぶのか 教育を生物学的に考える』

問一 「野生チンパンジーがする木の実割り行動の学習」の説明としてふさわしいものを問う問題です。7行目から12行目にかけて、子どものチンパンジーが木の実を割る行動にかかわっていることが述べられているところに着目します。概ね良好でした。

問二 チンパンジーは木の実割りができるようになるために、どのような学習をするのかを説明する問題です。38行目「とてもほかの個体がやっていることを真似しているとは言えません。」が傍線個所とほぼ同様の内容ですので、このあとの「個体学習、つまり自分自身の試行錯誤や洞察によってなしているようです。」を利用します。単にチンパンジーの行動を書いている答案、また、「～学習。」という文末になっていない答案が多くみられました。

問三 「人間はイミテーションをしているのです。」とあることに関連した二種類の実験で、幼児はどのようなことをしたかを説明する問題です。二種類の実験の相違点、すなわち「ランプを頭でつけて見せる」場合と、「両手を縛ってランプを頭でつけて見せる」場合を書いたうえで、幼児の行動の説明をする必要がありますが、場合分けができていない答案が多くありました。

問四 「ゆえん」は説明文などにはよく使われる語ですが、日常語ではないので、やや難しかったようです。抜き出し問題ですが、正答率は5割に届きませんでした。

問五 「日本人はなぜ勤勉で礼儀正しいと外国人から言われるのでしょうか」ということ

由を問う問題です。中心となるのは「勤勉で礼儀正しくふるまっている人を観察し模倣しているから」ですが、傍線部の直後に「勤勉さや礼儀作法を家庭や学校で意図的に身につけられることももちろんその理由でしょうが」とありますので、これも理由の一部としてあげられます。ここが抜けている答案が多くありました。

問六 接続詞を選択する問題です。ほとんどの答案が正解でした。

問七 漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。概ね良好でした。

問八 本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。イは「人間が教えても割ることはできない」、ウは「チンパンジーを見習わなければならない」、エは「その後、学習するにつれて、その能力は落ちていく」というところが誤りです。大変よくできていました。

## 2 出典：江國香織『僕はジャングルに住みたい』

問一 「あいつも見ていた」に関する問題です。恭介が野村さんに好意を持っていることの指摘のみにとどまり、「素直にみとめることができない」点には言及していない答案が大半でした。

問二 「やった。とん汁だ」と思った理由を問う問題です。「とん汁をきっかにして話せるから」「初めてとん汁の日に給食当番になれてうれしい」といった、本文の内容から少しはなれた答案が多く見られました。

問三 「お母さんが、恭介のちゃわんに、くたくたに煮えたすきやきのにんじんを入れた。」ということのできごとの順序を考える問題です。概ね良好でした。

問四 「青い表紙のサイン帖」を説明する問題です。「恭介が」という主語が明示されず「自分」「僕」となっている答案、「恭介の母が」となっている答案が多く見られました。

問五 「恭介が大島先生に呼びだされたのは、次の日の放課後だった。」という場面で、恭介を最もいらだたせたものを問う問題です。恭介は卒業のことは考えたくないという心情でいることに着目します。大島先生が「もうじき卒業だから」とあやまったことが最もいらだたせたと考えられます。やや難しかったようです。

問六 慣用句の問題です。概ね良好でした。

問七 擬声語または擬態語を入れる問題です。大変よくできていました。

問八 本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。アは「恭介は卒業にさみしさを感じていなかったの」、イは「恭介を担任のことを全く信用していなかった」、ウは「いっそのこと誰一人住んでいないジャングルに住んだ方がまだましだと思っていた」とあるのが誤りです。少し難しかったようで、選択問題ですが、正答率は5割程度にとどまりました。